

Hem21
NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和2年(2020) 9月

Vol.
83

CONTENTS

- ① 地域支援活動
- ② 研究員レポート
- ③ 情報ひろば
- ④～⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

兵庫県こころのケアセンターの機能
地域支援活動の実施

兵庫県こころのケアセンターは、国内外で自然災害、犯罪事件や事故等が発生した際の「こころのケア」について、地域からの要請に基づいて、体制整備についての助言をはじめ、現地での被災者(被害者)のメンタルヘルス対応や支援者への支援活動を行っています。

また、被災地域のニーズに応えるかたちで、専門性の高い精神科医療の提供と地域精神保健活動の支援を行うため、災害派遣精神医療チーム「ひょうごDPAT」が平成26(2016)年12月19日に発足し、平時から設置しています。具体的な活動として、東日本大震災や熊本地震被災者への継続的な支援に加え、令和2(2020)年2月には、ダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス感染症対策としてのこころのケアの実施により、船内にて宿泊待機を余儀なくされた乗客・乗員の精神医療ニーズに対応しました。

さらに、「ひょうごDPAT」は、多様な保健医療活動チームとの連携を含め、災害時精神保健医療のマネージメントも行える資質向上を目的として、兵庫県内の精神科医療機関等を対象とした研修も継続して実施しています。令和元年度の研修では、災害時に使用する通信機器や情報ツールを使用し、被災想定をしながらチームごとに実践演習も行いました。



ひょうごDPATステップアップ研修



新型コロナウイルス感染症対策でのこころのケア

こころのケアの主な活動実績

- ・JR福知山線脱線事故(H17年)
- ・能登半島地震災害(H19年)
- ・新潟県中越沖地震災害(H19年)
- ・台風第9号災害(H21～24年)
- ・東日本大震災(H23年～)
- ・熊本地震(H28年～)
- ・大阪北部地震および西日本豪雨災害、台風第21号被害(H30年、R元年)
- ・新型コロナウイルス感染症対策(R2年)
- ・スマトラ島沖地震における津波災害(H17年)
- ・中国四川大震災(H20～23年、H25～26年)
- ・ニュージーランド地震(H23年)
- ・チリ大地震(H27～29年)

その他、相談室と診療所では、トラウマ(こころの傷)やPTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する専門相談や治療を行っています。性被害、虐待やDVの相談件数が増加している中、トラウマに特化した専門的な治療を実施し、継続的な支援の中で改善効果がみられています。PTSD症状により、就労や対人関係等の様々な生活上の問題を抱える人も少なくないため、専門治療と並行して、社会資源の情報を提供したり地域の支援機関に繋げるなど、少しでも安心安全な環境が整えられるような支援も行っています。

南海トラフ地震に備える政策研究

主任研究員
磯村 和樹



背景・目的

今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震に備えて、具体的な事前対策や復興政策のあり方を提言するため、研究会を設けて政策研究に取り組んでいます。具体的には、「被災社会」とそれを支える「国と社会」の双方の観点から、6つの分科会等に分かれ、震災後の復興組織・体制や民間との連携、復興財源確保、被災者の生活再建、コミュニティや住宅の再建のあり方など多分野にわたって体系的に研究を進めています。

前々号にこれまでの研究会の概要を記載しているので、本稿では、それらの内容や、その後の進捗、今後の計画について、各研究会リーダーの報告を踏まえて掲載します。

●災害シナリオ部会

南海トラフ地震のリスクについて理解を深めるため、被災後の長期停電によって生じる状況・課題についての研究を進めています。具体的には、南海トラフ地震後の電力需給ギャップを推計し、国内各地域にどれほど電力不足が発生する恐れがあるか、明らかにします。さらに、過去の大災害時に停電により生じた事象を新聞記事や復興検証報告書等から抽出・整理し、その停電によってどのような被害が生じる恐れがあるか明らかにします。今後は推計だけでなく、電力会社へのインタビューや、新型コロナウイルスの影響なども踏まえたシナリオ検討を進めていくことにしています。

●復興組織・体制分科会

南海トラフ地震に対する行政の復興組織・体制について、どのように日常行政から防災体制へのスムーズな転換ができるか、現地調査やヒアリングを実施しつつ、研究を進めています。具体的には、南海トラフ地震への対処の全国的な概況や、被災が想定される南あわじ市や大阪府、それを支援する自衛隊の実情について聞き取りを行い、自治体の現状把握を行いました。今後は、新型コロナウイルスの動向を見ながら、より甚大な被害が予想される高知県や、電気通信分野、自治体の業務継続計画、国土交通省のインフラ対策等について調査を続けていくことにしています。

●官民連携分科会

南海トラフ地震に対して、行政のみで対処するには限界があり、その際、どのように民間と連携できるかについて、研究を進めています。具体的には、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨といった過去の災害での官民連携の事例について調査してきました。その結果、すでに日本の災害対応は官民連携が必須になっているものの、その全体像や、連携方法、サポート方法等が不明確という課題が明らかになりました。そのため今年度は、内閣府と連携し、防災関連の官民連携に対する全国的な民間企業への意向調査や、被災想定自治体への意向調査を実施し、その全体像や実情をつかむこと等を計画しています。

●災害リスクファイナンス分科会

南海トラフ地震時の復興財源の確保にむけた研究を進めています。そのために、昨年度は歳出入額の推計等を実施してき

ました。その結果、南海トラフ地震後の財政リスクは過小評価されており、しかも保険による分散についても過小であることから、世界的なリスクシェアの方策を検討する必要性を指摘しました。今年度は、さらに復興財政を支える世界銀行等の施策や、公共部門での保険の使われ方、国家間の災害リスク保険等に関する文献レビューを予定しています。最終的には、災害前の保険的方法の導入による行政の財政負担抑制等について提言することを予定しています。

●個人とコミュニティ分科会

南海トラフ地震が超高齢・人口減少時代に発生することを踏まえ、そのような時代の復興における個人やコミュニティの脆弱性の明示と、対策の制度化にむけて研究を進めています。具体的には、災害時の被害が要配慮者に集中することやその対策について、また、災害時の人口移動の要因について分析をしてきました。その結果、行政組織内での防災部局と福祉部局との連結の重要性等を指摘しました。今年度は、防災部局と福祉部局の連結を制度化するにあたり必要な予算の想定や、そのような連結が実際にうまくいった事例へのヒアリング等を予定しています。

●都市と住宅分科会

南海トラフ地震後の住宅復興をどのように進めていくべきか、AIシミュレーションを用いた研究を進めています。具体的には、住宅復興に関する指標（人口・応急仮設住宅建設戸数等）を選定し、その因果関係を整理する定量モデルの作成を行っています。モデルを作成した後は、AIシミュレーションを実施し、南海トラフ地震後の住宅復興のシナリオについてどのように分類できるか、その中でどのシナリオが望ましいか、そのシナリオ実現のためにはどのような対策をいつ実施すべきか、といった検討を進めることにしています。

《今後の進め方》

6つの分科会等において1年半にわたって南海トラフ地震への対処方針を明らかにするための検討を行ってきた結果、それぞれ具体的な研究のターゲットを絞り込むことができました。今後は、最終の成果のとりまとめを目指して研究を進めていくとともに、成果の全体統合を進めて、南海トラフ地震の対処についての政策提言をまとめることにしています。

研究戦略センター

第10回自治体災害対策全国会議参加者募集

阪神・淡路大震災以後、世界各地で様々な大災害が多発する時代を迎えています。大災害は、その都度異なる形で襲ってくることから、これに的確に対応できるよう、全国の自治体職員が、自治体の災害応急対策や復旧・復興への取り組みなどを情報共有しつつ、今後予想される様々な災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を開催します。

今回は、災害が頻発するなか、自治体はもとより様々な主体が連携して社会全体の災害対応力を高めるため、先進技術の導入や人材育成等、自治体の防災・危機管理体制の強化に向けた取り組みや、地域における要配慮者をはじめ誰一人取り残さない防災の推進方策について、新型コロナウイルス感染症の下での災害対応も視野に入れつつ考えます。

◆開催日＝令和2年11月12日(木)、13日(金)

◆場 所＝オンライン開催(YouTubeによる配信)

◆プログラム

1日目:11月12日(木)

- 基調講演＝「災害対応力を高める－技術・人材・仕組み」
林 春男
国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長
- 基調報告Ⅰ＝「鳥取県における自治体や地域の災害対応力の強化」
平井 伸治 鳥取県知事
- 基調報告Ⅱ＝「令和元年東日本台風への対応と教訓－気候変動対応型まちづくりに向けて」
品川 萬里 福島県郡山市長
- 講 話＝「新型コロナウイルス感染症と災害対応」
室崎 益輝 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授(自治体災害対策全国会議企画部会長)

2日目:11月13日(金)

- 特別報告＝「SIP「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」先端技術により変わる自治体の災害対応」
内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)
付参事官 井上 慶司
- パネルディスカッション第1部＝
「自治体の災害対応力の強化」
・座 長＝木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学専攻教授
・アドバイザー＝宇田川 真之 国立研究開発法人防災科学技術研究所主幹研究員
・報 告＝①「新潟県における被災者生活再建支援業務の標準化の取り組み」
新潟県 涌井 正之 防災局次長
②「檀原市における災害対策本部の機能強化」
奈良県檀原市 山本 知巳 危機管理課長
- パネルディスカッション第2部＝
「災害時に誰一人取り残さない地域づくり」
・座 長＝立木 茂雄 同志社大学社会学部教授
・アドバイザー＝鍵屋 一
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

- ・報 告＝①「兵庫県における防災と福祉が連携した避難体制づくり」
兵庫県 松久 士朗 企画県民部災害対策局長
②「別府市インクルーシブ防災～誰一人取り残さない防災～」
大分県別府市 村野 淳子 共創戦略室防災危機管理課防災推進専門員

●総括討議

- 五百旗頭 真 ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
(自治体災害対策全国会議事務総長)
- 室崎 益輝 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授
(自治体災害対策全国会議企画部会長)
- 木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学専攻教授
- 立木 茂雄 同志社大学社会学部教授

※プログラム内容は変更する場合があります

◆参加費＝無料

◆申し込み方法

下記のホームページからお申込みください。
<https://www.hemri21.jp/>

◆問い合わせ

自治体災害対策全国会議実行委員会事務局
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター 交流推進課)
TEL 078-262-5713

こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

「子ども虐待防止に医療ができること～やられてもやりかえせない人への支援」をテーマにした講演と、兵庫県こころのケアセンターの研究報告を行います。

◆日 時＝11月6日(金)13:30～16:30

◆場 所＝兵庫県こころのケアセンター

◆プログラム

- 第1部 研究報告
大塚 美菜子(兵庫県こころのケアセンター主任研究員)
- 第2部 講演
講師:毎原 敏郎(兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科科長)

◆定 員＝会場50人およびネット配信100人

◆参加費＝無料

◆申し込み方法

所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールで下記申し込み・問い合わせ先へ。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
※下記ホームページからプリントアウトできます

◆申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
<http://www.j-hits.org/>
※ネット配信希望者は原則Eメールにてお申し込みください

JICA関西

◆世界を知って、考えて、行動しよう! JICA 関西訪問プログラム(予約制)

JICAでは、日本政府が行う開発途上国における国際協力事業で培った知見・経験・人材を活用し「国際協力への理解と参加促進」「未来の地球を担う人材育成」を目的に開発教育支援事業を実施しています。自分で何ができるのかを考え、自ら行動できるグローバル人材の育成の一助として、様々なプログラムをご用意しています。是非、ご活用ください。

※ご希望に合わせて組み合わせることができます

1. JICA事業概要説明(30分)

JICAとは何? JICA関西はどんなことをしているの? どんな仕組みで仕事をしているの? など、皆さんの知りたいことに答えます。



活動体験談の様子

2. 活動体験談(60分)

JICAボランティア経験者や職員から、開発途上国での生活や活動の実際など、実体験に基づいた話を聞くことができます。



展示の様子

3. 施設見学(30分)

広報展示室など施設を見学できます。11月まではアフリカの暮らしについての展示をご覧ください。

■当面の間、1日1組、人数限定で実施(事前予約制)

■定休日=年中無休(年末年始を除く)



プログラム詳細

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)
開発教育支援事業担当
TEL 078-261-0384(直通) FAX 078-261-0357
Eメール jicaksic-kaihatsu@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
▶<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

令和2年7月豪雨災害

令和2(2020)年7月3日からの大雨により、九州地方をはじめ、広域にわたり甚大な被害が生じました。日本赤十字社では災害発生初期より被災地へ救護班を派遣しており、兵庫県からも熊本県保健医療調整本部要員として神戸赤十字病院のDMAT隊員を派遣しました。



Photo: Atsushi Shibuya



日本赤十字社では、この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は、全額を被災地にお届けいたします。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくはこちらのホームページをご確認ください。
<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/20200207/>

医師・看護師等の救護班が被災地で活動するための活動資金も併せて募集しています。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/>



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫 検索

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、
広報戦略・ブランディングの
ご相談を承ります



株式会社 イディー 〒650-0033 兵庫県神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10F
Tel 078-331-5255 Fax 078-331-7800 E-mail info@idee-kobe.com [イディー 神戸 検索](#)

コミュニティ型ワークスペース
「ON PAPER」はじめました!



ON PAPER

<https://onpaper.jp>

ONPAPER 検索

兵庫県立美術館

特別展「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」 minä perhonen / minagawa akira TSUZUKU

はじめり おわり すすみ もどる 心と象のつくとつづく
beginning, ending, enhancing, returning, mind and shape,
circle of creation goes on...

デザイナーの皆川明(1967-)が設立したブランド、ミナ ペルホネン。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けてきました。

皆川がミナ ペルホネンの前身となる「ミナ」を立ち上げたのは1995年。「せめて100年つづくブランドに」という思いでファッションからスタートした活動は、その後、インテリアや食器等など次第に生活全般へと広がり、現在ではデザインの領域を超えてホスピタリティを基盤にした分野へと拡張しています。そのたゆまぬ歩みは、2020年に25周年となりました。

本展覧会の「つづく」というタイトルは、文字通りブランドの時間的な継続性を示すものですが、それだけでなく、つながる・連なる・手を組む・循環するなど、モノや人が連鎖し何かを生み出していく生成のエネルギーを想起させる言葉でもあります。

多義的な意味をもつ「つづく」をキーワードに、本展覧会では、生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示いたします。

ミナ ペルホネンと皆川明のものづくりとその思考をこれまでにない規模で紹介する本展覧会は、私たちの日常生活やその先にある社会の仕組みについて新たな視点と示唆をもたらすことでしょう。

■会 期＝7月3日(金)～11月8日(日)
※日時指定による事前予約制での入場となります。詳しくは展覧会特設サイト(<https://mina-tsuzuku.jp/>)をご覧ください

■観覧料金＝一般1,400円、大学生・専門学校生1,000円、
70歳以上700円、高校生以下無料



本展「雲」セクション Photo: Ooki JINGU



本展「実」セクション Photo: Ooki JINGU

◎休館日＝月曜日

◎開館時間＝10時～18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

※新型コロナウイルス感染防止のため、開催の期間や時間を変更する可能性があります。最新の情報は兵庫県立美術館のホームページでご確認ください

TEL 078-262-0901(代) <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

日本に住む全世帯参加の国勢調査はじまります。

Let's Join!!
#みんなの国勢調査

インターネット回答期間

9/14(月)～10/7(水) 調査票(紙)での回答期間 10/1(木)～10/7(水)

国勢調査2020

<https://www.kokusei2020.go.jp/>



国勢調査2020



総務省統計局・都道府県・市区町村

日本国内に住むすべての人と世帯を対象とした5年に一度の大調査、「国勢調査」を実施します。
ご自宅に調査書類が届きましたら、忘れずにご回答をお願いします。回答はぜひスマホやパソコンからお願いします。

夏休み防災未来学校2020レポート

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターでは、7月23日から8月16日まで、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができるプログラムを用意し「夏休み防災未来学校」を開催しました。例年、夏休み期間中に開催するこの催しでは、今年度はコロナ禍に対応するため、初の試みとしてインターネット特設サイトを利用したオンラインでのプログラム配信を中心に実施しました。

特設サイトの動画は、いつでも繰り返しご視聴いただけるので、まだの方は「夏休み防災未来学校2020サイト」(<http://hitobou.com/event/summer/>)でぜひご覧ください。

1～21【オンラインプログラム】

22～24【リアル会場プログラム】…小学4～6年生と保護者がセンターへ来て参加するプログラム

1 ロープワークで ミサンガをつくろう！ [7/23～]

例年ワークショップで開催してきた恒例のロープワークプログラムを今年はオンラインで配信。非常時に役立つ本結びや二重8の字結びなどのロープの結び方を覚えながら、カラフルな紐とビーズを使ってミサンガを作ります。



2 かっこいい！ フェイスシールドを作ろう！ [7/24～]

新型コロナウイルス感染予防策としてお店などで見かけるようになったフェイスシールドを手作りするプログラムを初開催。感染症予防について学ぶとともに、100円均一ショップなどで揃う身近な素材を使って自分だけのオリジナルデザインのフェイスシールドを作成します。



3 ソーラークッカーを 作って、調理しよう！ [7/25～]

市販されているアルミのガス台シートや厚紙など身近な素材を使って本格的なパネル型ソーラークッカー（太陽の熱を利用して食材を加熱する調理器具）を作成し、太陽光でクッキングに挑戦します。



4 なんでもつかめる？ ロボットハンドを作ろう！ [7/26～]

ロボットは日常だけでなく災害時にも活躍します。物がつかめるロボットハンドのしくみと身近な材料を使った作り方を紹介します。



5 登山テクで身につけよう サバイバル力 [7/28～]

アウトドア技術は非常時にも役立つことから、好日山荘登山学校山岳ガイドの加藤智二氏を講師に迎え、ペットボトルを利用したシャワー等いざというときに役立つ技術を学びます。



6 「綿とシフォン」で オリジナルマスクを手作りしよう！ [7/29～]

新型コロナウイルス感染防止のためマスクをつける機会が多くなりました。手作りマスクをしている人も見かけるようになりましたが、ここでは異なる素材3種の生地をあわせてフィルター効果を高めたマスクの作り方を紹介します。



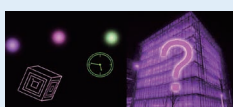
7 マスクケースになる 0次ポーチを手作りしよう！ [7/30～]

新型コロナウイルス感染防止でマスクを着用するだけでなく、交換用のマスクを持ち歩くことも多くなりました。自分の好きな生地を使って、予備のマスクや除菌グッズを携帯できるオリジナルポーチの作成法を紹介します。



8 おうちで体験！ ひとぼうバックヤードツアー ～資料収蔵庫を見学しよう！ [7/31～]

震災資料専門員が、人と防災未来センターのメモリアルセンターとしての役割や、保存している震災資料、収集方法や保存環境などについて、クイズ形式で紹介する動画を公開しました。



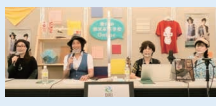
9 コロナ禍にどうする？ 避難所の開設・運営 [8/1～]

災害時、被災地では避難所が開設されますが、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでとは異なる対策が必要となっています。人と防災未来センターの木作尚子主任研究員、高岡誠子研究員からコロナ禍での避難所で各自が行うべき対策を学びます。



10 「私たちのSMONG」 みんなで歌づくりワークショップ [8/2～]

2004年スマトラ島沖地震津波で多くの人命を救ったという伝承歌「SMONG(スモン)」を学び、日本で新たな伝承歌を創作するワークショップを神戸発・防災音楽ユニットBloomWorksの司会進行で生配信しました。チャットで参加した人達から集まったメッセージを歌詞にして新たな津波から避難を呼びかける曲が出来上がりました。



11 紙の力！ 折り紙でいろいろ作ってみよう！ [8/4～]

新聞紙を身体に巻き付けることで防寒になるように、紙は日常で使うだけでなく非常時にも役立ちます。このプログラムでは、災害時にも役立つ紙の食器やコップの作り方を紹介します。



12 備え食で 非常時にもおいしくクッキング [主食編8/5～、デザート編8/6～]

いざという時のため、食のスキルを高めるプログラムを「主食編」と「デザート編」の2本で実施。「主食編」では保存食だけで作る主食＝パエリア、「デザート編」では常温保存できる材料と市販のお菓子で作ることができるピーチメルバ風パフェの作り方を紹介します。



13 地球サイエンス [8/7~] やってみよう!断層実験

ココアと小麦粉を使って地層を再現し、地震が起きたときに地面の中がどうなっているのかを観察できる断層実験を行います。スーパーや100円均一ショップで購入できる材料で作成できる実験装置を紹介します。



14 大切! [8/8~] 非常時のトイレの備え方

「チーム・トイレの自由」の長谷川高士氏を講師に迎え、災害時にトイレが使用できない場合の身近なものを使った処置方法を学びます。ねこ砂やおむつのほか新聞紙を細かく切って活用する方法などを紹介します。



15 震災から25年企画 [8/9~] 震災後世代に聞く、阪神・淡路大震災

人と防災未来センターの高原耕平主任研究員が、実際に阪神・淡路大震災当時0歳で震災の記憶がない世代の方に話を聞き、若い世代がどのように震災と向き合っているのかを紹介します。



16 「在宅避難」って何? [8/10~] 災害への備え方を学ぼう!

災害発生時に、家で避難生活を行う「在宅避難」について、人と防災未来センターのピニエロ アベウ T. コンノ研究員が解説します。ライフラインがとまっても、安心して家で避難生活を行うために大切なことを学びます。



17 マンションの [8/12~] 「安否確認」訓練の進め方

人と防災未来センターと同じHAT神戸にあるマンション・摩耶シーサイドプレイススイートが実際にやっている安否確認訓練の方法を同マンションの防災会のメンバーが解説します。ドアに貼る安否確認シートの各戸配布やフロア毎に安否確認を行う担当を決めておくなど事前に備えておくべきノウハウを学ぶことができます。



18 訪問! 阪神高速道路 [8/13~] 「震災資料保管庫」ツアー

阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた阪神高速道路の展示施設「震災資料保管庫」の訪問リポートを送ります。実際に被害を受けた構造物が展示されており、震災の衝撃の大きさを詳しく知ることができます。



19 大学生シークレット企画 [8/14~] 第1回 身体づくり

普段から健康を保つことが非常時でも自分の身を守ることに繋がるということから、身体づくりをテーマとしたプログラムを関西国際大学の学生が企画しました。室内でできるストレッチやトレーニング方法を紹介します。



20 大学生シークレット企画 [8/15~] 第2回 水害時の避難クイズ!

県内の大学生が参加し、阪神・淡路大震災の経験を若い世代に伝える活動を行っている「117KOBEぼうさい委員会」が、クイズ形式で大雨のときの避難方法について説明します。



21 みんなで考え、備えよう! [8/16~] 南海トラフ巨大地震への備え

人と防災未来センターの佐藤史弥主任研究員、河田慈人研究員、ピニエロ アベウ T. コンノ研究員による南海トラフ地震への備えを学ぶプログラムを生配信で実施しました。南海トラフ巨大地震はどのような地震で、どのくらいの被害が想定されているのかなど、身を守るための備えについて学びます。



22 ペットボトル地震計 [7/31、8/1] をつくろう!

地震計の原理を学んだあと、ペットボトルや乾電池などを使って、本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を製作しました(協力:京都大学阿武山観測所、原案:神奈川県温泉地学研究所)。



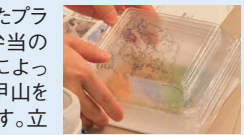
23 サバイバル手作り [8/7、8/8] ラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルでラジオを制作しました。受信力が弱い室内では電波が届かないため、完成したラジオを手になぎさ公園に移動すると、参加者全員の手作りラジオから音声を聞くことができました。



24 3D!? [8/14、8/15] 六甲山の立体地図をつくろう!

等高線を描いたプラスチック製のお弁当の蓋を重ねることによって、立体的に六甲山をみることができます。立体地図を制作するワークショップを人と防災未来センターリサーチフェロー坪井聖太郎氏を講師に迎えて実施しました。立体地図から六甲山の特徴を知ることにより、過去に六甲山で起きた災害と砂防ダムなどによる防災対策について学びました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生/小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料

[障がい者]

大人	大学生	高校生/小・中学生
150円(100円)	100円(50円)	無料

[70歳以上の高齢者] 300円(200円)

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

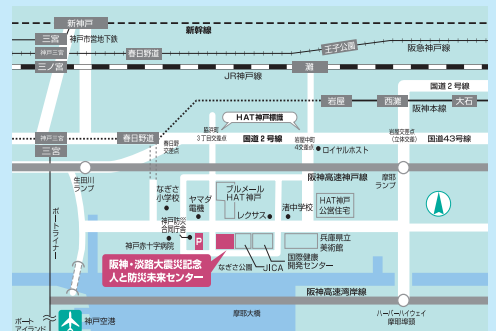
交通

鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス ・三宮駅から約15分

車 ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



令和2年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向けて継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生を顕彰する事業です。毎年1月に受賞校の表彰式・発表会を兵庫県公館で開催しています。

令和2年度の1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」は、16回目の開催となりますが、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮されている全国の学校・団体の状況を考慮した「特別企画」として実施します。



子どもたち・学生が取り組んできた防災教育や防災活動は、新型コロナウイルス感染症対策にも共通するものがあるのではないのでしょうか。この困難な状況を乗り越えて、防災教育や防災活動が新たな道を切り開いて進むように、との願いを込めて、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施します。

【対象部門】

- ①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生
⑤特別支援学校・団体

【対象活動】

- ①自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み(被災地支援活動も含む)
②健康と生活を守るための新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。※他薦歓迎

【対象期間】

令和元年10月1日～令和3年3月31日
(活動予定も含む)

【応募締切】

令和2年11月13日(金)

【応募方法】

右記のQRコードから、Webの申込みフォームにお進みいただきご応募ください。自薦他薦を問いません(なお、後日、事務局からご連絡する場合があります)。



【問い合わせ】

〒662-0041
西宮市末広町4-7 夙川レッチオ レジデンツァ402
ぼうさい甲子園事務局(特非) さくらネット
TEL 0798-23-3215
Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp



Hem21NEWS
vol.83

令和2年9月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください